

富士興産

大正倉庫を全面改装

太陽光で電力自給

特金スクラップ問屋の富士興産(本社大阪府浪速区、赤嶺和俊社長)はこのほど、主力ヤードの大正倉庫(大阪市大正区)の全面改装工事を完了させた。屋根・シャッター・照明などを刷新した上に、屋上に太陽光発電パネルを設置。働き方改革やSDGs(持続可能な開発目標)を前提とした取り組みと合わせて、作業環境を整えた。

同社はニッケル、コ

バルト、チタン、タンクスレン系のレアメタル・レアアースや、工員、磁石、電池、ステンレスのスクラップを扱う問屋。ヤードは大正倉庫と、2020年4月に開設した木津川倉庫(大阪市西成区)の2拠点体制で、月間扱量は1000トン以上。

大正倉庫は昨夏から改装工事を始めた。壁

根の改修に当たり、夏

照明に更新。倉庫内が

大幅に明るくなり、作

業の安全性を向上させ

た。また、出入口の上

部開口部を広げるとも

に既設の重量シャッター

を取り替え、さらに

自動検知して閉鎖する

シート製の大型高速シ

ャッターも新たに取

付けた。

これらの工事は現場

業務に影響がない週末

も利用して行い、1月

中旬に最終の電気工事

が完了した。赤嶺社長は「今夏までに工場のソーン空調機を4台導入する予定で、高速シヤッターはそのための前工事。気持ちのよい作業環境を整えることで、当社が目指す働き方改革の推進などにもつなげていく」と話す。

大正倉庫では勤務の2交代シフト制を従来より、荷受け時間を従来と比べて2時間長い朝7時から夕方6時まで

経済安全保障法制
供給網強化へ設
有識者会

経済安全保障法制に関する政府の有識者会議(座長川村木下)は、慶応大学教授は「日、提言を取りまとめた。重要物資のサプライチェーンの強化と基幹インフラの安全性確保、官民技術協力の特許出願の非公開化の4項目について内容を整理、民間企業の自由な経済



改装した大正倉庫

原料チタン

21年輸出3万ト回復

51%増、中国向け7倍

財務省がこのほど発表した貿易統計速報によると、スポンジチタンの2021年輸出は前年比51.2%増の3万3200トンだった。航空機用途の米国・英国

向けの回復は限定的だったが、一般産業用途の中国向けが7倍以上に急増したため、数字上では2年ぶりの3万トに回復した。

やインコットを指す「チタン塊・粉その他」の年間輸出は、航空機の必要部品を背景に、19年は過去最多の3万3789トを計上した。しかし、20年は新型コロナウイルス発生

により、旅客数が激減して航空機生産が急ブレーキ。海外チタンメーカーの買い止めと在庫調整により、前年比40.6%減の2万5500ト落ち込んだ。21年は年初は低調だ